

特定非営利活動法人 野生動物救護の会 会報



Vol.41

RUNNER



初夏だね！❀太陽キラキラ❖総会だよっ！みんな
でワイワイ楽しいこと決めちゃお！集まれ～！



RUNNER Vol.41 ～もくじ～

活動の現場 . . . 2

～On your side～

人間だけのものではない地球活動の現場 . . . 6

2024年秦野市立図書館衝突調査結果 . . . 8

粘着シートによる野鳥への被害について . . . 9

2024年度事業報告

2025年度事業予定(案) . . . 12

足環Project始動!! . . . 16

インフォメーション . . . 17

活動の現場

このコーナーでは普及啓発活動やイベントに参加した方達はその報告をしています

よこすか動物フェスティバル2024

猛暑が去り彼岸を迎え、一転して涼しくなった9月29日、横須賀の海を臨む三笠公園で、動物フェスティバルよこすか2024が行われ、当会も出展してきました。動物好きが集まるこのお祭りに、多くの人々が、中にはペットと共に集合し、盛況でした。

美しく仕上げられた羽根標本に足を留め、見入る人達に、放野できず命を落とした傷病鳥類のものだと説明すると、なるほどとうなずいていました。七沢の野生動物の映像に目を凝らして驚いている人も。雛の親子当てクイズは人気があり、多くの親子連れが挑戦していました。

猫による野鳥被害防止の「にゃーちゃん」が涙するポスターは、主に子どもたちの注目を集めました。

やってきたペットのミニブタとその飼い主が出展ブースの前から動かなくなり、その周りを写真を撮る人などが集まるハプニングも。

出展者側から見ると、他所の展示の工夫や熱心さは、同じボランティア組織の活動として刺激を受けました。

また犬の訓練実演などあまり見る事の無いショーを拝見することができ、魅力ある催しでした。

興味がある方は、機会あれば是非参加してください。決して期待を裏切らないです。

中村ゆり



10月30日（水）秦野市立北小学校支援級でのエコスクールの報告です。

①動物クイズ

どの動物に対してもほとんどはずれなく答えていた。場所柄野生動物の目撃が多いのかなと思った。さすがに「きょん」はわからなかったようだが...

②絵本「にゃーちゃんの冒険」

物語を詳細に解釈しての読み聞かせだと感じた。すずめと親猫の死の場面が出てきて、難しい絵本だと思うが、それぞれに受け止めていたようだ。最後に子猫たちが家に引き取られた場面では、安心した子ども達の様子が見られた。

③野生動物の現状

写真で具体的に説明することによって、子ども達の心に響いたと思う。血が出ていたり、羽がめくっていたり、ちょっと残酷かなと思うものもあったが素直に受け止めていたように思う。

④寸劇 ゴミゴミマン

ゴミを捨てることで出現するゴミゴミマンの設定で、過度に怖がる子どももおらず、こちらの意図が伝わったように思う。

⑤ふれあいタイム

- A フクロウのウイズリーくん
- B 骨格標本
- C 羽根標本
- D ゴミ

マイクロプラスチックがわかりづらいかと思い、ペットボトルのふたやラベルを用意していたが、「知っている」、「海で拾ったことがある」、「万華鏡を作った」などの声があり、マイクロプラスチックのことは知っていて、説明することが半分くらいになってしまった。

まとめ～質問

みんな好奇心旺盛で質問が沢山あった。教室から出てしまう子もいたが、遠くには行かず時々教室の中をのぞき、気になるようだった。

特別支援級の児童とのことで反応が気になったが、取り越し苦労で楽しい時間を過ごさせていただいた。

佐藤 聡



若木保育園（秦野エコスクール）

令和7年1月28日、寒さに負けず、園内を半袖半ズボン裸足で過ごす元気っ子たち20名と園長先生ならびに職員2名のみなさまにご参加いただきました。

救護された終生飼養のフクロウのウイズリーくんが同行していることもあり、「動物さんが怖がっちゃうからしーっだよ」と口元に手をそえる姿に動物たちへの優しい心遣いがうかがえました。

対象年齢が幼齢であるため、途中で飽きないように視覚的工夫をこらしたプログラム構成で印象強く効果的にアプローチをおこないました。

人間の被害により犠牲になった野生動物たちの写真に悲しみ、普段目にする事のないクマの実物大のパネルや剥製に驚き、定点カメラに映ったシカとイノシシをみては「鬼ごっこしてるね」と微笑み。

そして、翼に一生ものの障害をおったウイズリーくんを目の当たりにし、痛みに関心する想いや責任が見受けられました。

また、今回は日頃より登山をよくされる貴園の特性を踏まえ、クマに万が一出会ってしまったときの正しい回避方法をからだをつかって体験的に学んでいただきました。むやみに刺激を与えないよう「そーっとそーっと」と取り組む姿は真剣そのもの。

最後に、野生動物たちは山々に種を運びわたしたちみんなに恵みを与えてくれるとてもありがたい存在だと伝えられました。

約60分間、純真無垢な子供たちの眼差しは素晴らしく「動物さんのことをもっと好きになった」といった生の声を聞き、改めて教育の大切さと継続の意義を実感いたしました。

佐々奈緒



ながった幼稚園環境教育

1月18日（土）、学校法人長津田学園ながった幼稚園『いきもの抹茶館』にて卒園生を含む在園児親子20数名を対象に環境教育講座を行いました。横浜市のベッドタウンの中心に位置するにもかかわらず、広い敷地の中には小高い丘の雑木林があり、その中には希少な動植物が自然に生息・生育している池と『いきもの抹茶館』があります。月に一度の生きもの観察会を行ったり、外部組織によりここを利用している野鳥調査を実施しました。これらの取り組みから、環境省の令和5年度後期自然共生サイトに認定されました。

プログラムは笠原先生の紹介を受けて、まずは救護してきた写真を見せながら、人間が大きく関わっていることを伝え、次に絵本『にゃーちゃんの冒険』を使ってネコを室内で飼う意義を伝えました。続いて、野生動物の生活・クイズ、寸劇『ゴミゴミマン』、フクロウとのふれあい、質疑応答で1時間余りの講座となりました。このような環境の中で育まれている子どもたちは真剣そのものに話を聞き、質問も活発にできました。短い時間でしたが、有意義な時間を共有できたと思います。

田中和子

アンケートが届いているので、一部紹介いたします。

◇こどもたちの感想です。

- ・劇が楽しかった。
- ・鳥が窓ガラスにあたってケガをすること。
- ・ウィズリー（フクロウ）に会えたり、触れたりして楽しかったです。
- ・野生動物が人間のせいで傷ついている。
- ・巣立ちヒナが地面に落ちていたら保護センターに連絡するのではなく、木などに乗せてあげるんだとわかりました。

◇保護者の感想です。

- ・フクロウを初めて触った。近くで見た。寸劇が面白かった。
- ・ペットという存在の功罪や人と動物の関わり方は難しいという事。
- ・ゴミは適切に処分する。
- ・寸劇が子供に伝わりやすくて楽しめました。
- ・野生動物が傷つく原因は人間が作っていることが多いと、現実。
- ・本物のフクロウさんを近くで見られたこと。園長先生のフクロウエピソードが面白かったです。
- ・野生動物の救護の仕方をもっと具体的に知りたいと思いました。





皆様こんにちは。年に一度のランナー、そこへまた私の久しぶりの連載を載せて下さる事になりました。様々なニュースが飛び込んで来る中で考えた事、憤り、悲哀などまたいつものように話をさせて頂きます。どうぞ宜しくお願い致します。

昨今円安の影響によりインバウンドの増加が著しい中、日本への評価も上々である事は喜ばしく誇りに思っているだろう。しかしそれに反して私はこの状況をあまり好んではない。何故なら必ず副産物があり負の要素の出現があるからだ。確かに使われたお金で地域が潤う事は経済効果が上がるのだが、人が多く訪れる所が絶対避けて通れないのがゴミ処理、環境及び生態系の破壊である。各諸外国はどこも同じルールやマナーではなく多種多様だ。モラルの格差も大きい上宗教も絡んで来る。時の小泉首相が日本を観光国にするというスローガンを打ち出してから年月が経過し今やオーバーツーリズムという社会問題にまで到達してしまった。コロナが明けて円安が進み出入国手段が進化した影響でもある事は否めないしビザ免除対象地域の拡大という緩みもあるだろう。日本の文化や自然を楽しみ、素敵なお土産と共に帰国した人たちがまた訪れたいという気持ちになって再訪してくれるのは嬉しいが常に日本独自のルールやマナーを厳守してもらうのは当たり前である。私自身かなりの頻度で海外へ行っているが出発前に必ず目を通すのがその国の法律やルールだ。でないと間接的に生活基盤や文化のみならず自然を破壊したりゴミの産生に加担してしまう事になりかねないためである。し。。。罰金などが課せられるのは避けたいではないか。若い頃はコインパーキングで課せられた経験があるけれど(>_<)

特に自然豊かな国に訪れた場合は注意している。カナダ、アラスカ、ニュージーランド、スイスなどであるが細かく書くと切りがないので端折る事にしよう。日本にも風光明媚な場所は数多くありそれを維持し続ける取り組みや関わる人達の精神的骨格をインバウンドに伝え、お互いの国の良さを讃え大切に思う気持ちを共有する事は決して不可能ではないし解決する方法はいくらでもあると思う。例えばだ、その場所に立ち入る前に“ここは日本でも珍しい種類の動物や生き物の生息地です。日本に来て下さった皆様のお国にもそういった貴重な場所があるのと同じでそれを美しく保ち守って行く取り組みやルールを設けています。だからこそお互いに規則を尊重して一緒に大切な世界の財産を楽しみましょう。ご理解下さいましたら幸いです、、、。。。”

など、最近トイレで良く見かける、キレイにご利用下さりありがとうございます的な内容のビラを渡し、押し付けがましくない表現を用い訪れた国や場所に敬意やモラルを自然に引き出させる、また各バスツアーなどとタグを組み、必ず守らねばならないルールとそしてその理由をお客に何度か繰り返し説明することを義務付け、現地での行動を徹底させるなどアイデアは無限だ。

良心に訴えるやり方は人間心理行動学とやらなんとやらで証明されているそうである。また、それに何気なく便乗し自国で同じことをされたら貴方だって嫌でしょう？というニュアンスを込めるとハッとする場合もあるだろう。基本、日本に来る人達は得てして富裕層が多い様子。一括りには出来ないが生活が豊かであると気持ちにゆとりがあり、また物事を受け入れるキャパシティが大きい。そして真っ当な教育を施されているためモラルが高いといった三段論法のような妙に得心の行く結論に達するのだが、あながち間違っていないと思う。だからこそそこに訴えかけて行く必要性を強く思うのである。

少し話がずれたがいずれにしてもインバウンドの影響で日本に限らず多くの国や場所で環境問題が起こっている事については共通点があるので←ネットを見れば冒頭に出て来る、全世界の人達が同方向を向き解決への行進をしないと手遅れになってからでは取り返しがつかなくなる可能性が高い。それ程環境というのは繊細であり脆弱だ。そして環境の影響をダイレクトに受けてしまうのが動植物たちなのだ。温暖化による熊などの動物たちの不冬眠、森林火災で固有種が多数焼死したり重度の熱傷を負う、海水温上昇の影響でいるべき海域から固定種が消えたまたは激減した、接岸するはずの流氷が遅いため一緒に流れて来るプランクトンの減少で生態系に歪みが生じている、開発開拓を目的とした森林伐採、、、など探し始めたら枚挙に暇がない。人が破壊した環境は人が解決せねばならない義務であり課題ではないと思う。環境と聞くと水質やエネルギー、大気、海洋などが先ず思い浮かぶがそこには必ず沢山の生き物たちが生息しており、人間の未来だけを危惧してはいけないと考える。多くの花、樹木、昆虫、海洋生物、動物を始めとした彼らの無数の命によって人の生活が豊かになり助けられている事に感謝と敬意を忘れてはならない。やっと最近採れなく、または獲れなくなって来たものについて増やす、期間を決める、人の手で育てるといった試みが浸透し広がって来ている。当たり前だ、取れるからと欲張り節操なくかき込めば無くなるに決まっているのだから。気付くのが遅いのだ。人間には高度に学習するという叡智があるはずなのに。気付かないままよりは余程マシだが。確かに気候変動という立ち向かうには壮大過ぎる脅威があるが地球全体の理想やあるべき姿を追い求める時、人のみの快適や幸せに局限しているうちは決して描くそこへは辿り着けないであろう。ここ何年かの災害の規模を鑑みる時、やはり人が被った被害だけでなく破壊された自然や傷ついた動物たちにもカメラを向け、彼らの救済や再生への活動や取り組みも沢山の人間に意識付けて同時並行で復興と救護が可能になる事を願う。辛く苦しいのは動物たちだって同じなのだから。人の様に助けてと叫ぶ事が出来ないのだから。

ランナーに連載して来た、環境や地球への私自身の考えと深く強い想いの背骨とスタンス “～On your side～” 人だけのものではない地球。言葉を持たない全ての生き物の立場に想いを馳せ彼らの声なき悲鳴に耳を傾けて

最後に

テレビ番組が被災地の現場を取材して放映しているがその中に飼われていた動物たち＝ペットや家畜たちに関するものをほぼ視た事がない。私自身、被災地の様子を見ると先ず先に動物たちはどうしているだろうと心配してしまう。人はどうでも良いと言っているのではなく動物たちへの支援の充実は恐らく人の比ではないはずで、言葉で訴えられないため助けてもらえず恐怖と空腹を黙って震えて耐えているだけではないだろうか。痛たまれなくなってしまうのである。そんな時はまずはスマホやPCという文明の利器に尋ねてそこから自分に出来る事を探し出せば良いのだが、依存症ではない私はなかなかスッとそこまで行きつかない。アナログとデジタルの過渡期世代のウィークポイントだろうか。上手く時代に乗りに使いきなせる様になる日。。。。

は、一生来ない気がする(^_^)ゞ



伊熊



2024年 秦野市立図書館衝突調査結果

野生動物救護の会「バードストライク研究会」では窓ガラスへの野鳥の衝突調査を行っています。

2024年の結果は下記のとおりです。

表1 衝突痕月別件数

衝突痕の月別件数													
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
2024	17	3	4	2	4	0	3	0	2	0	3	3	41

表2 種別死体回収件数

	2024
種名	死体
キジバト	2
ムクドリ	1
メジロ	1
ツグミ	1
ドバト+ハト類	1
合計	6



写真1 2024年4月に回収されたメジロ

表3 死体回収月別回数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
2024		1		1			1				1	2	6



写真2 2024年12月に回収されたツグミ



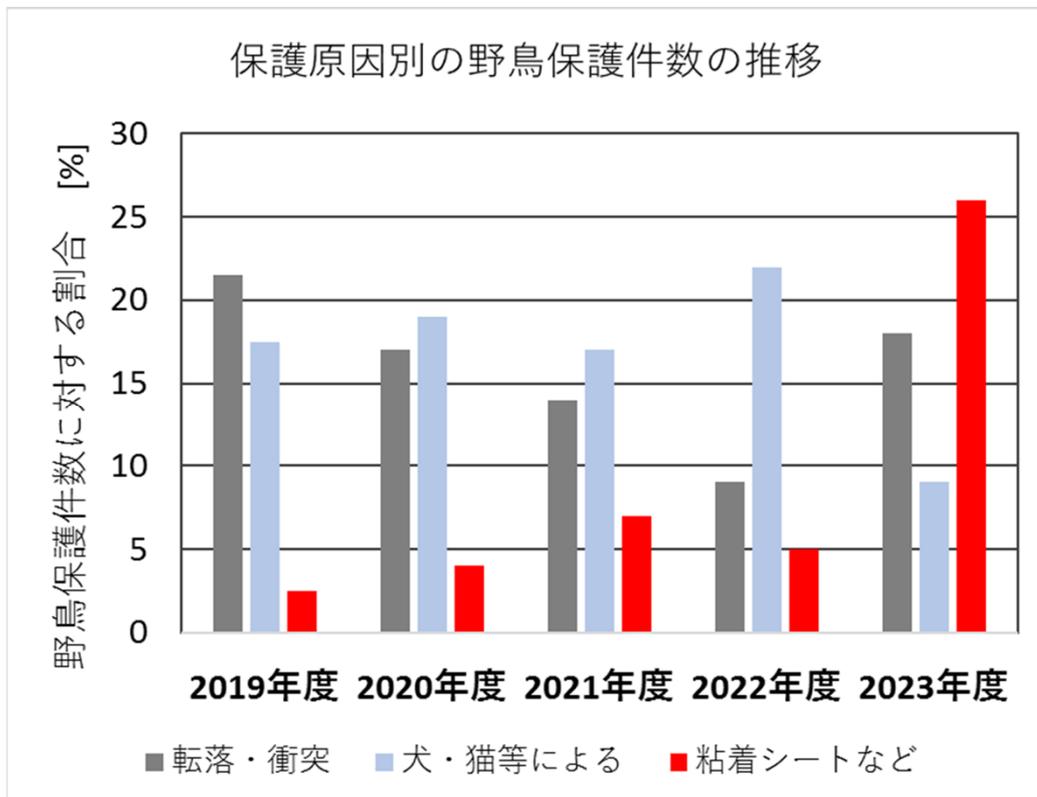
渡辺

粘着シートによる 野鳥への被害について

2025年2月に開催された“さがみ自然フォーラム”においてポスター発表した内容を本誌に再掲載します。この記事を読んでいる皆さんにネズミ捕り粘着シートによる野鳥への被害が増えていることを知ってもらい、どうしたら良いか一緒に考えてもらいたいと思います。

粘着シートによる野鳥への被害が増えています！

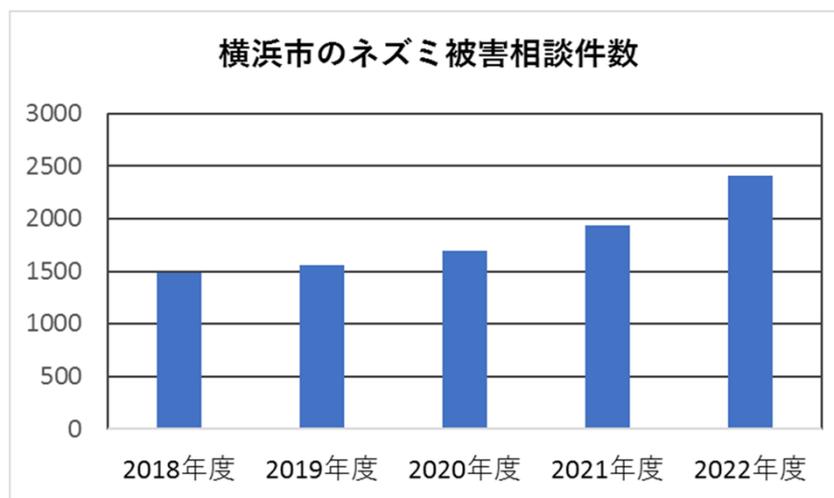
ネズミを捕獲するために仕掛けられた粘着シートに、野鳥がかかってしまう被害が急増しています。2019年度から2022年度までは、自然環境保全センターの野鳥の保護件数全体の5%前後でしたが、2023年度には26%まで増加して、いきなり保護原因のワースト1位になりました。そして2024年度も多くの野鳥が粘着シートに捕らわれて救護施設に持ち込まれています。



粘着シートによる被害が増えた原因

新型コロナウイルスの流行以降、専門業者などへ一般市民からのネズミ被害に関する相談件数が増えているようです。横浜市でもネズミ被害に関する相談が増加していて、2018年度では1480件であった相談件数が、2022年度には2407件に上っています。

新型コロナウイルス流行以降の人間の生活スタイルの変化は、ネズミの活動範囲が住宅街まで広がった原因のひとつかもしれません。その他にも空家の増加、ゴミ問題、天敵の減少など、原因はいくつもあると考えられます。また、都市部でのネズミの増加問題は、アメリカやヨーロッパにおいても発生していて、地球温暖化が原因であると主張する研究者もいます。



粘着シート被害から野鳥を守るために

粘着シート被害から野鳥を守るもっともシンプルな方法は、「屋外で粘着シートを使わないこと」です。粘着シートはネズミ以外の生き物も簡単にとらえてしまいます。

民家の庭やベランダで食べ物を探すスズメ、シジュウカラ、ジョウビタキやヒヨドリなどの小型の野鳥は、粘着シートに捕らわれれば、自力で逃げることはできません。ときには粘着シートに捕らわれた昆虫や爬虫類、ネズミを狙って飛びついたハクセキレイやフクロウまで犠牲になってしまいます。



粘着シートに野鳥が捕らわれていたら

もしも上の写真のように粘着シートに捕らわれた野鳥を発見したら、どうしますか？
まずはこれ以上鳥の羽や体が張り付かないように、シートの粘着部分、張り付いている鳥の羽や体の部分に小麦粉をまぶします。このとき鳥の顔に小麦粉をつけないようにしましょう。無理にはがそうとせず、専門の施設に連絡して、そのまま保護してもらってください。

運よく小麦粉をまぶしている最中に鳥がシートからはがれたときには、油を付けたり、洗剤で洗ったりは絶対にしないでください。体温低下やストレスで、鳥が衰弱してしまいます。



資料提供：神奈川県自然環境保全センター 自然保護課

参考：「横浜市、ネズミの相談急増 コロナ禍で活動範囲拡大か 食中毒、火災のリスクに」 産経新聞
(<https://www.sankei.com/article/20231129-6F7NBIDT4NLTNJVULKSUMRA3LE/>) 2025/2/3閲覧

「世界の大都市でネズミが増加、最大の原因は温暖化 米研究」 CNN
(<https://www.cnn.co.jp/fringe/35228987.html>) 2025/2/3閲覧

「傷病鳥獣救護実績」 神奈川県
(<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/f4y/05shoubyou/top/jisseki.html>) 2025/1/29閲覧

2024年度事業報告 2025年度事業予定(案)

6月に予定されている定期総会では、昨年度の総括や今年度の事業内容についてご意見をいただきたく、ここに前年度の事業報告と今年度の事業活動予定を掲載します。皆さまには是非目を通していただき、ご検討をお願い致します。

2024年度NPO法人野生動物救護の会 事業報告（案）

1. 傷病鳥獣救護の直接的事業

傷病鳥獣の救護ボランティアの推奨	通年	自然環境保全センター
Mプロジェクト（猛禽類のリハビリ）	通年	プロジェクト参加者自宅

2. 救護ボランティアを養成する事業

野生動物救護ボランティア講習会	10月26日	自然環境保全センター
-----------------	--------	------------

3. 主に会員を対象とした啓発事業

4. 主に市民を対象とした啓発事業

ブナの森ギャラリー企画展示 「羽根標本」	4月～6月	自然環境保全センター
よこすか動物フェスティバルへの参加	9月29日	三笠公園
秦野市民の日への参加	11月3日	はだのカルチャーパーク
動物フェスティバルかながわへの参加	10月20日	南足柄市役所
さがみ自然フォーラムへの参加	2月6～11日	アミューあつぎ
2023年度丹沢自然再生活動報告会への参加	1月25日	秦野保健福祉センター
環境教育		
はだのエコスクール	9月17日	アカデミーアイ保育園
	10月30日	北小学校
	1月28日	若木保育園
イオンチアーズクラブ活動サポート	7月29日	イオン秦野店
イオンチアーズクラブ壁新聞	9月1日	堀川公民館
学校法人 長津田学園 ながつた幼稚園	1月18日	横浜市 ながつた幼稚園

5. 情報発信的事業

会報誌RUNNERの発行	5月	
ホームページの運営 会員への情報発信	通年	野生動物救護の会事務局

6. 調査・観察的な事業

秦野市立図書館衝突調査	4月26日、5月31日、 6月28日、7月26日、 8月30日、9月27日、 10月25日、11月29日、 12月27日、2月28日、 3月28日	秦野市立図書館
羽根標本等の標本作成	年数回	自然環境保全センター
樹洞性哺乳類・鳥類調査	通年	自然環境保全センター
野生動物痕跡調査	通年	自然環境保全センター、秦野市
足環プロジェクト	通年	自然環境保全センター

7. 関係団体との協働的事业

丹沢大山ボランティアネットワーク総会	書面開催	自然環境保全センター
丹沢大山ボランティアネットワーク講演会	9月14日	自然環境保全センター
丹沢大山ボランティアネットワーク世話人会	年数回	自然環境保全センター
傷病鳥獣保護連絡協議会	10月9日	Web開催
自然発見クラブ 野鳥の巣箱づくり	2月15日	自然環境保全センター

8. 運営的事业

NPO法人 野生動物救護の会定期総会	6月23日	自然環境保全センター
救護の会の事務的管理（名簿・会費・物品など）	通年	野生動物救護の会事務局

9. 各種助成金による事業

丹沢大山自然再生委員会調査・研究助成金		自然環境保全センター
みどりを育む集い助成金		自然環境保全センター

2025年度NPO法人野生動物救護の会 事業予定（案）

1. 傷病鳥獣救護の直接的事業

傷病鳥獣の救護ボランティアの推奨	通年	自然環境保全センター
Mプロジェクト（猛禽類のリハビリ）	通年	プロジェクト参加者自宅

2. 救護ボランティアを養成する事業

野生動物救護ボランティア講習会	予定	自然環境保全センター
-----------------	----	------------

3. 主に会員を対象とした啓発事業

探鳥会	年数回予定	近隣各所
野生動物痕跡調査講習会	年数回予定	自然環境保全センター

4. 主に市民を対象とした啓発事業

ブナの森ギャラリー企画展示「羽根標本」「巣箱」	4～6月中旬まで	自然環境保全センター
2025 あつぎ環境フェアへの参加	10月19日	厚木市中央公園
秦野市民の日への参加	11月3日予定	秦野カルチャーパーク
動物フェスティバルかながわへの参加	10月予定	伊勢原市
さがみ自然フォーラムへの参加	2月予定	
環境教育 はだのエコスクール	要請があれば実施	秦野市内の学校等

5. 情報発信的事业

会報誌RUNNERの発行	年数回	
ホームページの運営 会員への情報発信	通年	野生動物救護の会事務局

6. 調査・観察的な事業

秦野市立図書館衝突調査	月1回	秦野市立図書館
羽根標本等の標本作成	年数回	自然環境保全センター
樹洞性哺乳類・鳥類調査	通年	自然環境保全センター
野生動物痕跡調査	通年	自然環境保全センター
足環プロジェクト	通年	自然環境保全センター
秦野市 ・野生動物センサーカメラ調査 ・小鳥用・ムササビ用巣箱センサーカメラ調査	通年	柳川生き物の里 養毛自然観察の森
水質調査	5月上旬	犬越路隧道水場

7. 関係団体との協働的事業

丹沢大山ボランティアネットワーク総会	4月12日	自然環境保全センター
丹沢大山ボランティアネットワーク講演会	9月13日	自然環境保全センター
丹沢大山ボランティアネットワーク世話人会	年数回	自然環境保全センター
傷病鳥獣保護連絡協議会	予定	
自然発見クラブ 羽根標本	8月23日	自然環境保全センター
自然発見クラブ 野鳥の巣箱づくり	1月24日	自然環境保全センター

8. 運営的事業

NPO法人 野生動物救護の会定期総会	6月14日	自然環境保全センター
救護の会の事務的管理（名簿・会費・物品など）	通年	野生動物救護の会事務局
野生動物救護の会の理事会・スタッフ会議	随時	自然環境保全センター

9. 各種助成金による事業

みどりを育む集い助成金		自然環境保全センター

足環Project 始動!!

足環プロジェクトとは、足環を付けた放鳥個体が野外で発見もしくは再捕獲等されることで、その個体の生存年数、移動範囲・距離などを知ることができます。詳しくは「RUNNER」vol.16を御覧ください。

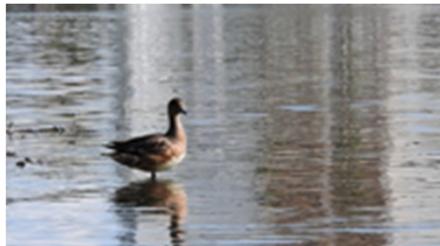
2024年4月～足環を付けて放された鳥たち

No.	種名	足環番号	放野日	放野場所
1	コサギ	Q1	7月18日	寒川町 川とのふれあい公園
2	ツミ	Q2	8月19日	相模原市
3	オオタカ	Q3	9月17日	秦野市
4	フクロウ	Q3	11月27日	小田原市
5	コガモ	Q4	12月2日	平塚市
6	トビ	Q5	12月2日	平塚市
7	トビ	Q6	2月10日	厚木市
8	コサギ	Q7	2月10日	平塚市
9	チョウゲンボウ	Q8	2月19日	平塚市
10	ヒドリガモ	Q9	3月8日	小田原市

放野後目撃された鳥

オオタカ	Q3	2024/9/17	秦野市	2024/11/14	平塚市豊田にて
------	----	-----------	-----	------------	---------

赤い足環をつけた野鳥を見かけたら、下記まで連絡して下さい。



NPO法人 野生動物救護の会 TEL 0463-75-1830

e-mail : wildrelief@kanagawa-choju.sakura.ne.jp

または

神奈川県自然環境保全センター 自然保護課 TEL 046-248-6682

鳥の詳しい情報はこちらに載せています。

ブログURL : <http://blog.goo.ne.jp/yaseidobutsu-kyugo>

インフォメーション

定期総会

① 第18回 NPO法人 野生動物救護の会 定期総会

日時：6月14日（土）13：10～受付 13：30～総会

場所：神奈川県自然環境保全センター 2F ワーキングルーム

イベント・企画展示

① ブナの森展示

日時：4～6月中旬

場所：神奈川県自然環境保全センター 2Fブナノモリギャラリー

テーマ：「羽根標本」「巣箱」

② 2025あつぎ環境フェア（予定）

日時：10月19日（日）

場所：厚木市中央公園

衝突調査

① 秦野市立図書館衝突調査

日時：毎月最終金曜日

場所：秦野市立図書館

救護の会 ブログ“ 始まっています！

◆野生動物救護の会の活動の様子を楽しくご紹介！

日常のボランティア活動や、猛禽類の訓練風景（M project）、各種イベントのお知らせや報告などなど、随時更新しています。救護の会HP トップページ「救護の会ブログ始めました！」のバナーをクリックしてご覧下さい♪

アドレスはコチラ→ <http://kanagawa-choju.sakura.ne.jp/index.html>

緊急インフォメーション

🔥 熱い仲間、大募集 🔥

小学校や幼稚園・保育園での環境教育を一緒に盛り上げてくれるスーパー助っ人を大募集中です！「楽しい！」を創る側で体験してみませんか？担当してもらう可能性のある業務内容は先生役、道具作り、写真係などなど。未経験でも全然OK！先輩スタッフが丁寧に教えます👉環境教育を最高にしたい！って気持ちがある方、ぜひ飛び込んできてください！詳細は事務局まで！待ってます

☆☆入会へのお誘い☆☆

当会は、設立趣旨にご賛同頂きました皆様方の会費によって運営されております。どなたでも活動に参加いただけます。

★一般会員：年会費2,000円

★学生会員：年会費1,000円

私たちの活動を支えて下さる賛助会員も同時に募集しています。

★賛助会員：年会費 法人一口5,000円/個人一口3,000円 一口以上

【振込先】

ゆうちょ銀行振替口座：00270-0-47040

名義：特定非営利活動法人 野生動物救護の会

発行月：2025年5月 発行：特定非営利活動法人 野生動物救護の会 電話：0463-75-1830

〒259-1306 神奈川県秦野市戸川1086番地の4 ホームページ：<http://kanagawa-choju.sakura.ne.jp/>

編集者

